

最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

「誰一人取り残さない学力の向上」について

現行 (R3)

指導主事の訪問は
R4も継続実施

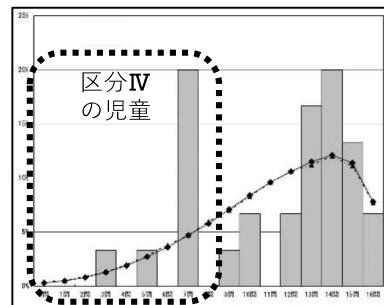
指導資料等を活用した授業改善



指導主事の訪問

全国平均以上の学校
106校

全国平均を超えているA小学校の令和3年度全国学力・学習状況調査における算数の正答数分布グラフ



対全国比1.0 (全国平均)

指導資料等を活用した授業改善



指導主事の訪問

教員の授業改善への意識の向上や授業力の向上に向けた実践的指導



学力向上指導実践チームの訪問 (月2回程度)

指導資料等を活用した授業改善



指導主事の訪問

学力向上に向けた取組への支援



学校力UPコラボレーターの配置 (週2~3日)

学力向上に向けた取組への指導助言



学校力UPチーフコラボレーターの訪問 (月1~2回程度)

放課後学習の実施



学校力UPサポーターの配置

学力向上推進事業
(240校)

教員の指導力向上を図るために、「学力向上指導実践チーム」が授業改善に向け、訪問指導

学校力UP支援事業
(70校)

学校力UPコレボレーター等を配置し、個々の学校の課題に応じた多面的・総合的な支援

R4
基本的な方向
「誰一人取り残さない学力の向上」

学力向上支援チーム事業 (案)

小中学校及び義務教育学校
全409校

授業力向上への支援
【基本支援】

スクールアドバイザー



(409校に拡充)

子ども一人一人の課題に応じた指導の充実
【重点支援】

学びコラボレーター 学びチーフコラボレーター 学びサポート

(90校に拡充)

目的

ブロック担当指導主事や指導技術に長けた元校長などから構成される「支援チーム」が小中学校及び義務教育学校全409校を定期的に訪問し、教員の授業力向上を図るとともに、子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を通して、学力に課題の見られる全ての児童生徒（区分IV※）へのきめ細かで継続した指導・支援を行い、児童生徒の基礎学力の定着及び学力向上を図る。

※全国（公立）の児童生徒全員の正答分布の状況から高い順に、概ね25%区切りで、区分I、区分II、区分III、区分IVの4つに分けたとき、区分IVの割合を「学力に課題の見られる児童生徒の割合」とした。

概要

- ◆ 区分IVの児童生徒の支援として「全国学力・学習状況調査」及び「小学校学力経年調査」「中学生チャレンジテスト」等の結果分析から見えた課題に対し、ブロック担当指導主事や指導技術に長けた元校長などから構成される「支援チーム」が小中学校及び義務教育学校全409校を区分IVの割合に応じた訪問を通して、実践的指導を行い、教員の授業力向上を図る。
- ◆ 特に、区分IVの児童生徒の多い学校に対しては、学びコラボレーターや学びサポートーを配置し、校長と学びチーフコラボレーターが協働して計画した学力向上への取組を通して、放課後学習等の個別支援を重点的に実施する。
- ◆ 児童生徒一人ひとりの学習理解度や学習状況等を把握・分析し、それぞれの課題に応じた効果的な指導方法や必要な支援策の企画立案に向けシンクタンク機能の充実を図る。